

特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」におけるこどもを主対象とした展示理解促進の取り組みについて

翁 みほり

1. はじめに

奈良国立博物館（以下、当館）では、令和3（2021）年7月17日から9月12日にかけて、特別展「奈良博三昧—至高の仏教美術コレクション—」（以下、本展）を開催した。本展は、当館が所蔵する作品のうち、仏教美術コレクションを中心に名品を選びすぐって紹介するとともに、日本仏教美術1400年の歴史をたどる展覧会である。当館で開催する特別展の来場者の年齢層について、50代以上が約6～7割と大半を占める傾向にあり、若い世代の来場者が少ないことが常に課題であった。そこで本展においては、新たな来場者層の開拓に努めるとともに、こどもから大人まで、さらには仏教美術に親しんだ経験の有無を問わず、幅広い層が楽しめる展示にすることを目指した。

本展では、主にこどもや仏教美術に親しんだ経験のない来場者に楽しんでもらうために、2種の取り組みを実践した。

一つ目は、こどもを主対象としたキャプションやパネルの設置である。近年、展示に関連する基礎情報等を平易な文章で解説するパネル等を設置する取り組みが、九州国立博物館等の他館においても実践されている。そうした他館の取り組みを参考にした上で、当館は小学校高学年のこどもが自身で読んで理解できる程度に内容を平易にしたキャプションと解説パネルを本展の会場内に設置し、幅広い層の展示理解の促進を図った。

そして二つ目はジュニアガイドの配布である。当館では、こどもが特別展を楽しめるよう、平成29（2017）年以降、年に2回程度の頻度で特別展のジュニアガイドを制作し、会場内にて来場者に配布するという取り組みを実施してきた。主に小学校高学年から中学生が利用することを想定してジュニアガイドを制作してきたが、主な制作対象であるこどものみならず、幅広い年齢層の来場者が利用していることがアンケートの記述や目視観察により判明した。そのため、ジュニアガイドが幅広い層の来場者の展示理解を促進させるのに有効な手段であると考え、本展においてもジュニアガイドを制作し、来場者に配布することとした。

本稿では、上記の二つの取り組みについて報告する。

2. 本展の基礎情報

まず、本展の基礎情報を以下に記載する。

展覧会名称 特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術コレクション―」

会期 令和3（2021）年7月17日～9月12日

（前期：7月17日～8月15日、後期：8月17日～9月12日）

※会期中に一度展示替えを実施

休館日 毎週月曜日 ※ただし、8月9日（月・振休）は開館

開館時間 午前9時30分～午後6時 ※毎週土曜日は午後7時まで開館

会場 当館東新館・西新館

主催 当館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿

協賛 岩谷産業、大和ハウス工業、非破壊検査

協力 日本香堂、仏教美術協会

料金 一般1,500(1,300)円、高大生1,000(800)円、小中生500(300)円

※カッコ内は前売料金

出陳件数 246件（うち国宝13件、重要文化財100件）

展示構成 全10章

（以下、各章の構成）

第1章	ブツダの造形
第2章	飛鳥・白鳳・天平の古代寺院
第3章	写経に込められた祈り
第4章	密教の聖教とみほとけ
第5章	仏教儀礼の荘厳
第6章	地獄極楽と浄土教の美術
第7章	神と仏が織りなす美
第8章	高僧のすがた
第9章	南都ゆかりの仏教美術
第10章	奈良博コレクション三昧

来場者数 34,659名

なお、本展の主担当者は当館学芸部教育室長の谷口耕生氏で、副担当者は同学芸部長の吉澤悟氏と同列品室長の斎木涼子氏である。

3. 本展におけるこどもを主対象とした展示理解促進の取り組みの内容

冒頭においても述べた通り、本展では、幅広い層が楽しめる展示にすることを目指し、主にこどもや仏教美術に親しんだ経験のない来場者に楽しんでもらうために、こどもを主対象としたキャプションや解説パネルを会場内に設置するほか、ジュニアガイドを配布する等の取り組みを行った。それらの取り組みの内容を以下、紹介する。

3-1. こどもを主対象としたキャプションと解説パネルの設置

(1) こどもを主対象としたキャプション

(1)-1. 設置点数と位置

本展においては、通常のキャプションに加え、各章の2～3点の作品にこどもを主対象としたキャプションを設置した〔写真1〕。計28点のキャプションを制作し、前期・後期に各21点設置した。こどもの作品に対する興味や関心を引き出すために、主にこどもが視覚的に興味を持ちやすい作品にこどもを主対象としたキャプションを設置した。キャプションを設置する位置について、こどもが読みやすいよう、ケース内にキャプションを設置する場合は作品付近の手前部分に設置し、ケース外の壁面に設置する場合は、約1mの高さに掲示した。

(1)-2. 掲載情報・デザイン

キャプションには、上から順に、出陳番号・作品の指定・作品名称・制作時代・作品の解説文を掲載した〔写真2〕。作品の解説項目においては、作品の概要のほか、ほとけの種類やその役割・特徴についての説明をかみくだいた表現で記載した。各キャプションの作品解説は110字以内で収まるように執筆した。こどもが読みやすかつ親しみを持てるよう、漢字にはすべてルビをふるほか、文章は「～だよ」・「～なんだ」といったように、すべて口語体で統一した。

デザインについては、すべてA4変形サイズで統一した。本展は各章にテーマカラーを設ける形としたため、こどもを主対象としたキャプションも各章のテーマカラーにあわせた配色にした。フォントはUD新丸ゴシック体で統一した。またアイキャッチとして、当館の公式キャラクターである「ざんまいず」のイラストを右上部分にデザインした。鑑賞者が飽きないように、イラストは1点ずつ異なるデザインとした。こどもを主対象としたキャプションの執筆とイラストを担当したのは筆者である。



写真1 こどもを主対象としたキャプションの設置風景（向かって右側手前部分に設置）

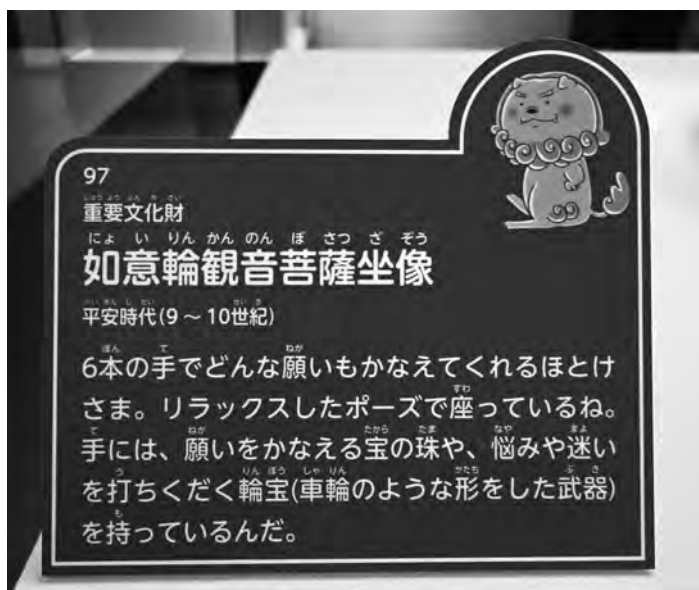


写真2 こどもを主対象としたキャプションの例

(2) こどもを主対象とした解説パネル

(2) - 1. 設置点数と位置

本展においては、各章の導入部分に章の内容について解説するパネルを1点ずつ設置した。それにあわせて、こどもを主対象とした解説パネルも各章に1点ずつ、計10点を設置した〔写真3〕。基本的に、章解説パネルの横に並べる形で設置したが、会場の展示レイアウトの都合により、一部のこどもを主対象とした解説パネルは、章解説パネルとは別の位置に設置した。

(2) - 2. 掲載情報・デザイン

こどもを主対象とした解説パネルは、章解説パネルの内容をそのままかみくだきわかりやすい内容に置き換えるのではなく、「仏教ってなに？」や、「ふしぎな道具 密教法具」といったように、各章の展示テーマを理解するための手助けとなるような、仏教や仏教美術に関連する基礎的な情報を記載した。解説文は、250字以内に収まるように統一し、こどもを主対象としたキャプションと同様、こどもが自身で読んで理解できるよう、漢字にはすべてルビをふるほか、平易な文章表現を用いるようにした。また解説パネルは、柔らかい印象を与えるように、文末は「～です」・「～ます」等の丁寧語で統一した。

デザインについては、写真4のように丸みを感じさせるパネルの形状で統一した。こどもの目線の高さを意識し、パネルの高さは160cmで設定した。背景色は白色を基本とし、文字の色は各章のテーマカラーで統一するようにした。フォントについては、こどもを主対象としたキャプションと同様、UD新丸ゴシック体で統一した。また、解説文の下部分にアイキャッチとして、「ざんまいず」のキャラクターのイラストをあしらった。なお、キャラクターのイラストは、各章のコーナー



写真3 こどもを主対象とした解説パネルの設置風景（向かって右側がこどもを主対象とした解説パネル、左側は章解説パネル）

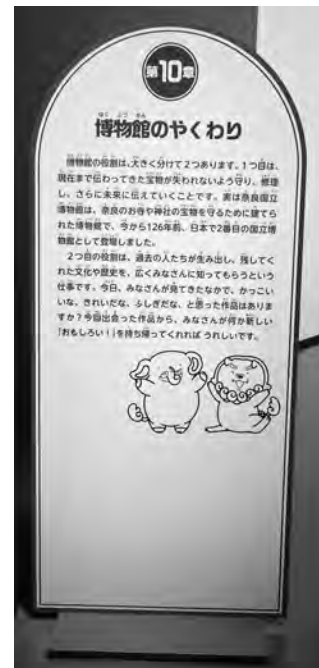


写真4 こどもを主対象とした解説パネル

の雰囲気にあうように、各章のテーマカラーにあわせた線画のデザインにした。また、こどもを主対象としたキャプションと同様、来場者が飽きないように、キャラクターのイラストは1点ずつデザインに変化をもたせた。こどもを主対象とした解説パネルの執筆は当館学芸部列品室長の斎木涼子氏が担当し、イラストは筆者が担当した。

3-2. ジュニアガイドの配布

本展において、主に小学校高学年から中学生を対象に、ジュニアガイド「なぞとき！ ざんまいずの探検—あおじしの主を探して—」を制作し、来場者に配布した〔図1〕。会場内で作品をじっくり鑑賞してもらい、来場者の作品に対する興味や理解を深めることをねらいとし、展示作品にまつわる全10問のクイズで内容を構成した〔図2〕。各クイズについては、展示作品を観察する、あるいはこどもを主対象としたキャプションを読むことにより、選択式で解答できる内容にした。

また、クイズ全問に挑戦する意欲を引き出すために、「ざんまいず」のうち「あおじし」というキャラクターが、自身の主であるほとけさまを探すために、展示の各章の世界を他のキャラクターとともに旅するというストーリー性をもたせたマンガ形式にした。さらに、全10問のクイズをすべて解いた上で、最後に暗号表を解読すると、「あおじし」の主である、文殊菩薩をモデルにした当館の教育普及キャラクター「ちえひろ丸（「知恵が広まる」という意味）」の名前がわかるというしかけを盛り込んだ。

仕様はA5サイズの横長形式・全面カラー印刷の小冊子で、全16ページで構成される。会場入口に設置する形で配布した。小学校高学年から中学生を主な対象としてジュニアガイドを制作したが、配布対象についてはこどもに限定せず、希望者全員に配布する形とした。なお、ジュニアガイドのクイズに挑戦した来場者には、会場出口にて答えと解説を記載したシートを配布するほか、景品としてざんまいずをデザインしたシールを1枚提供した。また、会場出口には、あおじしの主であるキャラクター「ちえひろ丸」の記念スタンプを捺することができるコーナーも用意した。



図1 ジュニアガイド「なぞとき！ ざんまいずの探検—あおじしの主を探して—」の表紙



図2 ジュニアガイドのクイズの例

ジュニアガイドを制作したのは当館学芸部とNHK奈良放送局で、ジュニアガイドの構成・イラストは筆者が担当し、デザイン・編集・キャラクター「ちえひろ丸」の作画は当館学芸部教育室事務補佐員の塩山あゆみ氏が担当した。文章については、当館学芸部教育室職員の上記の二者で担当した。

4. こどもを主対象とした取り組みに対する来場者の反応

本展の会期中に、本展来場者に対するアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施方法は以下の通りである。

調査実施期間 令和3（2021）年7月17日～9月12日

実施方法 会場出口にアンケート用紙を設置し、各自記入する方式

回収枚数 計253枚（日本語版251枚、英語版2枚）

設問項目 ①回答者に関する情報、②認知経路、③来館理由、④展示内容、⑤展示会場（展示方法、解説文、照明、空調）、⑥観覧料金、⑦図録の料金、⑧ショップ・レストラン、⑨館内スタッフ、⑩建物及び周辺環境美化、⑪その他の感想・意見等

上記項目のうち、④「展示内容」と⑤「展示会場」、⑪「その他の感想・意見等」の三つの項目に自由記述欄が設けられており、自由記述の感想は計436件であった。

上記アンケート調査や、ジュニアガイドの利用数等からわかった、こどもを主対象とした取り組みに対する来場者の反応を以下に記載する。

4-1. こどもを主対象としたキャプションと解説パネルに対する来場者の反応

自由記述の感想436件のうち、こどもを主対象としたキャプションと解説パネルに関する感想の記述は計61件あった。以下、その感想の一部の感想を紹介する。

〔以下、自由記述欄より一部抜粋〕

「子供（小学校低学年）が、読むことができる展示ボードの設置がとても良かった。」（9歳以下のこどもの保護者）

「あまり知識がない自分でも、ガイドと横に小さく出ている解説や豆知識などでとても楽しめました。」（10代）

「子供向けの解説パネルがとてもわかりやすく、大人でもそのパネルばかり見ていました。」（50代）

「子供用の解説は大人にも役立ちます」（50代）

「歴史に詳しくない自分には子供向けに展示されていたキャラクターの分かりやすい説明があり、楽しく理解できました。」（30代）

「解説文が良かったです。若い世代に向けて作られたのですが、解説文がおもしろいことで、作品も、とても心に残りました。」（30代）

「子ども向けのやさしい解説がわかりやすくとても良かった。あれを読んでも大人は結構多かったように思う。」(20代)

上記の感想のように、「こどもだけでなく、大人にとってもわかりやすく良い」といった趣旨の感想が大半を占めたこと、加えてこどもを主対象としたキャプションや解説パネルについて、改善を要望する記述はなかったことから、

好評だったといえる。また、アンケートの自由記述欄の感想全436件のうち、こどもを主対象としたキャプションや解説パネルに関する感想が61件にのぼったことから、来場者の反響の大きさが読み取れる。実際に、来場者がこどもを主対象としたキャプションや解説パネルを読む様子が目視観察により確認された〔写真5〕。これらのことから、こどもを主対象としたキャプションや解説パネルを設置することにより、主にこどもや仏教美術に親しん

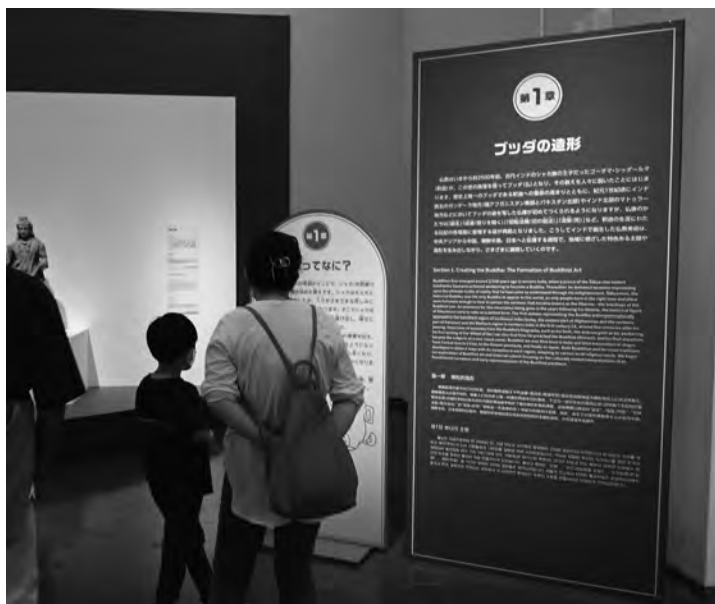


写真5 こどもを主対象とした解説パネルを読む来場者

だ経験のない来場者に本展を楽しんでもらうという目的は、おおよそ果たせたといえる。

4-2. ジュニアガイドの利用者の反応

ジュニアガイドの配布部数は計11,810部となった。全来場者34,659名のうち、29.3%の来場者がジュニアガイドを持ち帰ったことがわかる。また、ジュニアガイドのクイズに挑戦した来場者に提供したシールの枚数は計3,434枚であった。その枚数から、全来場者のうち10.1%の来場者が会場内でクイズに取り組んだことが判明する。さらに、ジュニアガイドを手にとった来場者のうち、会場内でクイズに挑戦した割合は34.4%であったことがわかった。

またアンケートにおいて、ジュニアガイドに関する自由記述の感想は計14件あった。主な制作対象であるこどもや、その保護者の感想として、以下に記載した例のように、「クイズを楽しんだ」といった趣旨の感想を確認することができた。

〔以下、自由記述欄より一部抜粋〕

「クイズが楽しかった」(9歳以下・小学生)

「クイズがおもしろかった」(10代・小学生)

「なぞときざんまいずの探検、子供が喜んで興味を持ちとても良かったです。大人が説明しきれない事を子供がわかりやすく説明してあり、すごく良かったです！」(50代)

会場内においても、こどもがジュニアガイドを手会場内をまわる様子を確認することができた〔写真6〕。また、主な制作対象である小中学生のみならず、大人もジュニアガイドを利用し、展示

鑑賞を楽しむことができたという感想があった。
その一部を以下に記載する。

〔以下、自由記述欄より一部抜粋〕

「ジュニアガイドと共に観覧しました。何もなしで見るとよりも、『知らなかった!』という気づきを得られたと思います。」(10代・大学生)

「小・中学生ではありませんが、ジュニアガイドのかみくだいた説明や、疑問に思った所、注目しのがす所などがクイズで紹介されていて、より楽しみながら巡ることができました。今後もあるとうれしいです。」(10代・大学生)

「もうよい大人ですが、ジュニアガイドを活用して展示を楽しみました!ストーリー仕立てでかわいくわかりやすかったです。」(20代)

「仏像に興味のある友人に連れられてやって来ました。わたし自身はあまりもともと詳しくないのでさりとまわる程度でしたが、ざんまいずのクイズラリーのおかげで大変たのしく、そして興味深く拝観することができました。楽しい企画をありがとうございました。これがなかったらさりと帰っちゃうところでした。」(40代)

上記の感想から、ジュニアガイドがこどもだけでなく、大人にとっても展示理解に役立ったことがわかる。実際、会場内にて大人がジュニアガイドを利用する様子も確認された〔写真7〕。なお、こどもを主対象としたキャプションや解説パネルと同様、ジュニアガイドについても改善を要望する感想はなかった。またアンケートの感想に加えて、全来場者のうち約3割がジュニアガイドを持ち帰り、また全来場者のうち約1割がジュニアガイドを利用したことから、配布率・利用率ともに高かったといえ、その数字からも幅広い層にジュニアガイドが受け入れられたことがわかる。

ただし一方で、課題が1点残った。筆者が会場内にて来場者がジュニアガイドを利用する様子を観察していたところ、作品やキャプションを見てクイズの答えがわかった途端にその作品の鑑賞を止め、すぐに別の作品の元へと移動する、という光景を度々目にしたのである。そうした利用者の行動から、クイズを解くこと自体が目的になってしまい、作品をじっくりと鑑賞させる効果や展示理解を促進させる効果を十分に引き出せていない事例も中にはあったことを気に留めておかねばな



写真6 こどもの来場者がジュニアガイドのクイズを解く様子



写真7 大人の来場者がジュニアガイドのクイズを解く様子

らないだろう。今後、クイズの設問を設定する際には、よりじっくりと作品を鑑賞してもらえるような内容にする等の工夫が必要だと考える。

5. おわりに

以上、本展におけるこどもを主対象とした展示理解促進の取り組みについて紹介してきた。本展来場者の年齢層について、40代以下の割合が6割を占める結果となったことから、若い世代を中心とした新しい来館者層を開拓するという目標は達成できたといえる。⁽²⁾このように幅広い層に本展を楽しんでもらえた背景には、本展におけるこどもを主対象とした取り組みによる成果も大きく関係しているといえるだろう。今後の展覧会においても、幅広い層が楽しめるよう、様々な取り組みを実践していきたい。

注

(1) 参考までに、令和2(2020)年度と令和3(2021)年度に当館にて開催した特別展における50代以上の来場者が占める割合を以下に記載する(いずれも会期中に実施したアンケート調査の集計結果に基づく)。

・御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」

(会期：令和2〔2020〕年7月4日～9月6日)

…50代以上の来場者の割合56.1%

・特別展「第72回 正倉院展」

(会期：令和2〔2020〕年10月24日～11月9日)

…50代以上の来場者の割合61.3%

・聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

(会期：令和3〔2021〕年4月27日～6月20日)

…50代以上の来場者の割合73.0%

・特別展「第73回 正倉院展」

(会期：令和3〔2021〕年10月30日～11月15日)

…50代以上の来場者の割合63.7%

(2) 本展の来場者の年齢層について、本展会期中に実施したアンケート調査の集計結果より、9歳以下が1.7%、10代が14.6%、20代が16.7%、30代が12.0%、40代が15.0%、50代が20.6%、60代が13.7%、70代が5.2%、80歳以上が0.4%であることがわかった。40代以下の来場者の割合は60.0%となった。

掲載写真

本稿に掲載している写真はすべて筆者が撮影した。

(おきな みほり／奈良国立博物館学芸部教育室研究員)

③その他

- ・奈良県文化財保護審議委員
- ・南京大学繆斯基基金芸術顧問

奈良国立博物館研究紀要

鹿園雑集

第二十四号

令和四年三月三十一日発行

編集発行 奈良国立博物館

〒630・8223

奈良市登大路町五〇番地

印刷・製本

株式会社天理時報社
天理市稲葉町八〇番地